

授業で勝負！今一度「授業5」を大切にしたい授業づくりを

夏季休業を控え、学期末の成績処理等で慌ただしい日々を過ごされていることと思います。さて、今号は、改めて日々の授業づくりにおいて大切にしたい「岡山型学習指導のスタンダード」の「一単位時間の授業5（ファイブ）」について、再度、確認をしたいと思います。

「授業5（ファイブ）」について

■「確かな学力」を習得させる中心は**授業**です！

県教委では、児童生徒が「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感できる授業の実施に当たり、学習指導全体を通じて押さえるべきポイントを「授業5」としてスタンダードに示しています。

児童生徒の学習の姿を基に
授業を再確認してみましょう

「できた」「分かった」で終わる授業のポイント

先生方は、毎時間、児童生徒に「これだけは伝えたい」「分からせたい」「できるようにさせたい」…という思いをもって授業に臨まれているはずで、これを学習場面では「まとめ」という形で児童生徒に提示をしています。しかし、子どもたちは、そのまとめに達するまでの道筋が見えていません。そこで……。



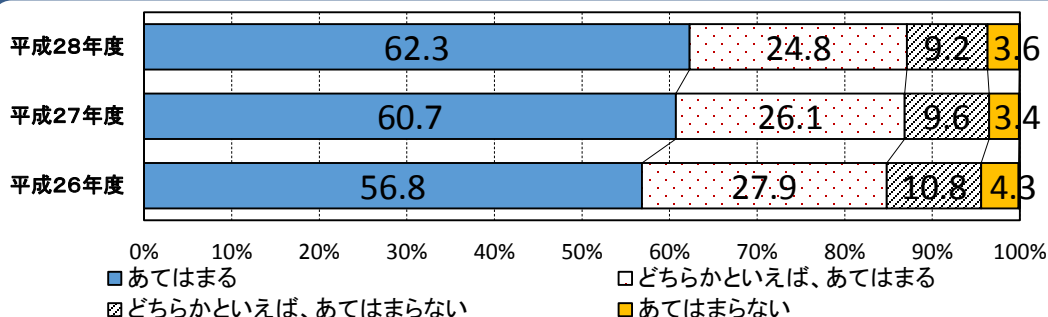
岡山県マスコット
「ももっち」

ポイントその1

本時の目標（めあて）を児童生徒にとって**見える「姿」**で示せていますか。

Q42: 授業のはじめに、学習のねらいや目標が示されていた。

平成28年度岡山県学力・学習状況調査結果より



肯定的な回答をした生徒の割合

平成28年度：87.1%
平成27年度：86.8%
平成26年度：84.8%

めあての提示は、かなり定着してきていると言えます。しかし、めあてが、児童生徒にとっての達成目標としてきちんと示されているでしょうか？

児童生徒が本時を振り返ったときに、何が分かるようになり、できるようになって、どこに課題が残っているのかを、自分自身で把握できるようにするためにも、達成できた姿を想起できるめあてを提示することが大切です。

⇒詳しくは、Point 3で説明したいと思います。

ポイントその2

児童生徒が、ねらいを基に活動の姿を具現化できる授業展開になっていますか。

児童生徒が主体的、協働的に学習に取り組めるよう、自分で考えたり、考えたことを表現する時間を授業時間中に確保することは非常に大切です。しかし、活動すること自体を目的として、「まず、話し合ってみよう」「なんでもいいから書いてみよう」などと具体的な指示をせず、いきなり活動に取り組ませても効果は上がりません。児童生徒が、なぜ、その活動を行うのかを、ねらいを基にきちんと説明をして、児童生徒の学習の姿を見える化して教師から提示をすることで活動の質が高まります。



児童生徒は、教師の指示を受けて、話し合い活動やペア学習に取り組みますが、やらされている、真の力を付けているとは言えません。

教師が、児童生徒に活動のゴールイメージを明確に抱かす指示・支援を行うことで、児童生徒は、主体的かつ協働的活動に取り組めます。

教師が「ねらい」を達成するために活動をさせる。

児童生徒が「ねらい」を達成した姿を目指して活動する。



ポイントその3

「まとめ」と「めあて」が繋がった授業構成になっていますか。

導入

め

3けたどうしの引き算で、十の位が引けない筆算のしかたを考えよう。



本時の最後に「百の位から1くり下げて計算できるようになる」という児童にとってのゴールの「姿」が見えるめあてとして、筆算のしかたを考えることができれば十分なのではないでしょうか？

【改訂】3けたどうしの引き算で、十の位が引けない筆算のしかたを見つけよう。

見つけたら、児童は、そのことを伝えたくなくなるはずです・・・。

終末

ま

3けたどうしの引き算で、十の位が引けない筆算は、百の位から1くり下げて計算する。

授業における「まとめ」とは、教師が本時の内容等を分かりやすく整理し、めあてに対する教師の「答え」を提示する場面です。本例では、筆算を行う際に、百の位から1くり下げればよいことを理解させることが教師のねらいです。その際、「・・・考えよう」や「・・・理解しよう」※というめあてよりは、「・・・見つけよう」とした方が、児童の達成状況を把握しやすく、指導改善に生かせることができます。

このように、「まとめ」から「めあて」を考えることで、児童生徒にとってより分かりやすい授業づくりにつなげていくことができます。

※ 「・・・考えよう」や「・・・理解しよう」というめあても、展開の内容によっては重要なめあてになります。

◆ 次号は、「おかやま教師力アップセミナー」における耳塚教授の講演の論点についてお知らせします。